

「観光」から「関係」へ

～宮津を「押し」てみませんか？～

京都大学大学院 公共政策教育部公共政策専攻 政策提言ゼミ
澁谷真司 竹中友梨 冨田紘生 富永悠真 藤本衡

KYOTO UNIVERSITY

本提案の概要

ワーケーションを活用した交流人口から関係人口を創出する事業の提案

宮津市の現状	<ul style="list-style-type: none">人口減少 移住人口だけでは将来的に市機能の維持が困難
先行事例が抱える課題	<ul style="list-style-type: none">移住定住促進政策のハードル交流人口の多さを生かしきれない関係人口創出政策
事業の提案	<ul style="list-style-type: none">概要<ul style="list-style-type: none">①ワーケーション宿泊プラン②ワーケーション×体験③関係人口ポータルサイト効果<ul style="list-style-type: none">・関係人口の創出・将来的な人口増加
今後の展望	<ul style="list-style-type: none">一般化した「宮津モデル」で全国的な地域課題の解決に貢献

宮津市を選んだ理由

全国的な課題の1つとして**人口減少問題**が挙げられる。我々の住む京都府の市の中では、宮津市の人口が一番少ないことが分かった。宮津市の人口は1980年代から減少しており、2045年には9,436人まで減少すると推計されている。それに対して、年間観光入込客数は約200万人超と**交流人口が多い**。

我々は、この人口減少に対する解決策を探るべく、宮津市にヒアリング調査を行った。宮津市役所の方は、**移住人口だけでは将来的に市機能の維持が難しい**ため、令和2年度から関係人口創出政策に乗り出したと述べていた。

そこで我々は移住・定住政策ではなく、将来的な人口増加を目的とした関係人口創出の促進事業を提案する。

宮津市とは？

【概要】

人口 16,758人(2021年現在)

面積 172.74平方キロメートル

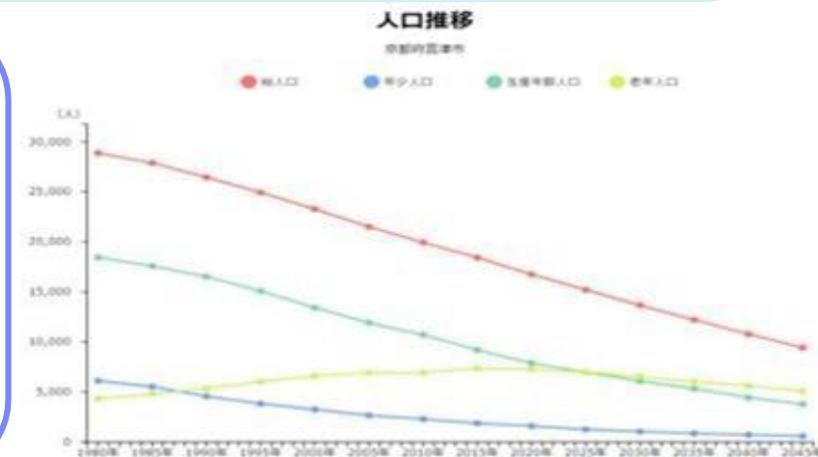
【特長】

京都府の北西部(丹後エリア)に位置し、日本海若狭湾に面している。

【アクセス】

<自動車> 大阪から約1時間40分、京都から約1時間10分

<電車> 大阪から約2時間20分、京都から約2時間



先行事例①移住定住促進政策

移住促進を図っていたが、思ったような成果を挙げられていない

【宮津市の定住政策】

■ お試し住宅政策

本格的な移住を検討してもらうことを目的として、手軽に宮津市への移住を体験できる**お試し住宅**を設置。

(H29～H30、H29:6件、H30:9件)

■ UIターンサポートセンター

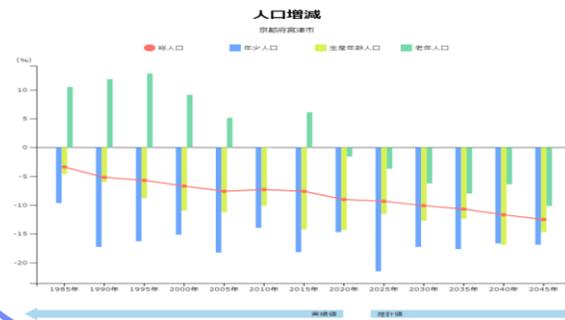
UIターンサポートセンターを設置し、移住希望者からの相談対応や受入地域との調整等を実施。

【結果】

■ お試し住宅

観光目的の利用もあり**定住に繋がらなかったため**、平成30年度末をもって**廃止**した。

■ 定住人口は計画値よりも減少傾向が強く、平成30年から令和元年で317人減少し、令和2年度末目標値の18,000人を既に下回っている。



移住定住政策のハードル

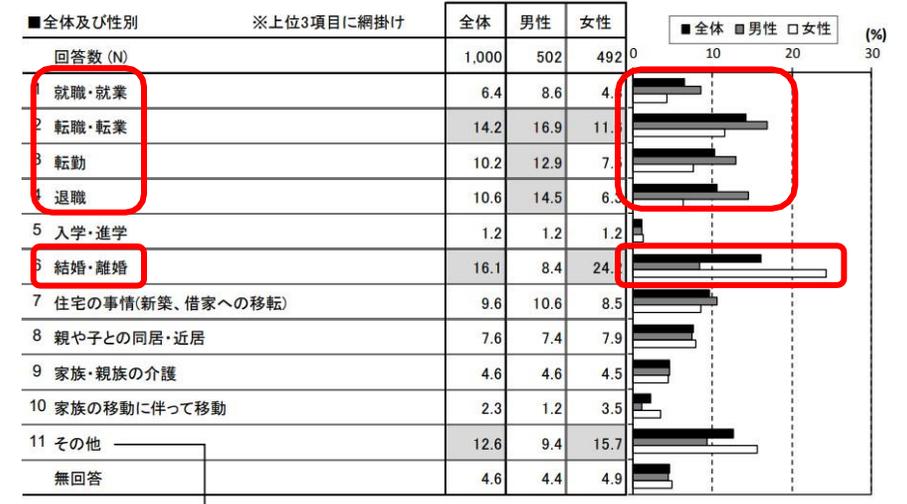
限られた機会に移住先として選ばれなければならない

移住のタイミングは結婚・離婚や就職、転職等
数少ないタイミング

見知らぬ土地は移住先として選ばれにくい

コミュニティとのつながりをつくっておくことで、
将来の移住先の候補となる

過疎地域への転居のタイミングアンケート調査
(平成29年度)



関係人口創出政策

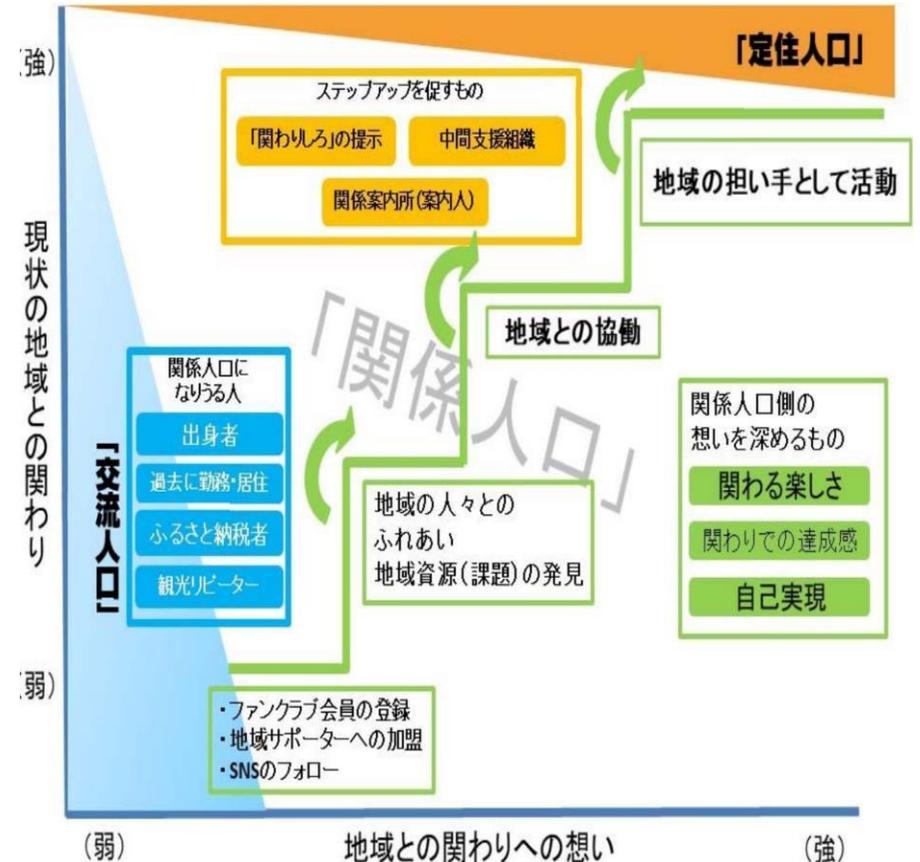
参考：関係人口とは

「特定の地域に関わり(関心や関与)を持つ域外の人々」
⇒交流人口でもなく定住人口でもない

関係人口となることで...

- 地域の担い手として活躍する。
- 地域住民との交流が新たなイノベーションを生み出す。
- 地域のコミュニティに関わり、**将来の移住先候補としての順位が高まる。**
- 交流人口よりも関わり先を移住先として魅力的に捉えており、**関係人口が多い地域は転入超過回数が多かった。**

関係人口の受け入れ体制を整えることによって
移住者の増加につながる可能性がある。



先行事例②関係人口創出政策

関係人口は創出されたが、今後さらなる成果をあげられる要素が少ない

【宮津市の関係人口政策】

- 副業・兼業プロ人材の受入れ
「MIYAZU未来デザインセンター」を通じて受け入れ、市の関係人口創出等の取組への助言を受ける。
- ワークেশョンの拠点整備
国の地方創生テレワーク交付金や、市のワークেশョン補助金を使用して、クロスワークセンターを中心に関係人口創出をする。



【結果】

- 副業・兼業プロ人材の受入れ
470名の応募があり、「MIYAZU未来戦略マネージャー」として7名を採用。
- ワークেশョンの拠点整備
令和3年度末までに4つのワークেশョン拠点を設立し、利用企業数は11社。
中核拠点であるクロスワークセンターの利用数は310回、利用者は156人(令和4年8月時点)。
しかし、**利用者の6割程度は宮津市内の人**である。

施策: From「観光」to「関係」プロジェクト

観光からワーケーション、すなわち交流人口から関係人口の創出を図る

交流人口の多さを活かすべくターゲットを明確にし、確実に関係人口に繋がられる施策を提案する

【個別施策】

①ワーケーション宿泊プラン

宿泊経験のある子連れ世帯へ
ワーケーションプランを提案

=観光からワーケーションへ取り込む。

②ワーケーション×参加型体験

ワーケーション期間中に地域と関わる体験を提供

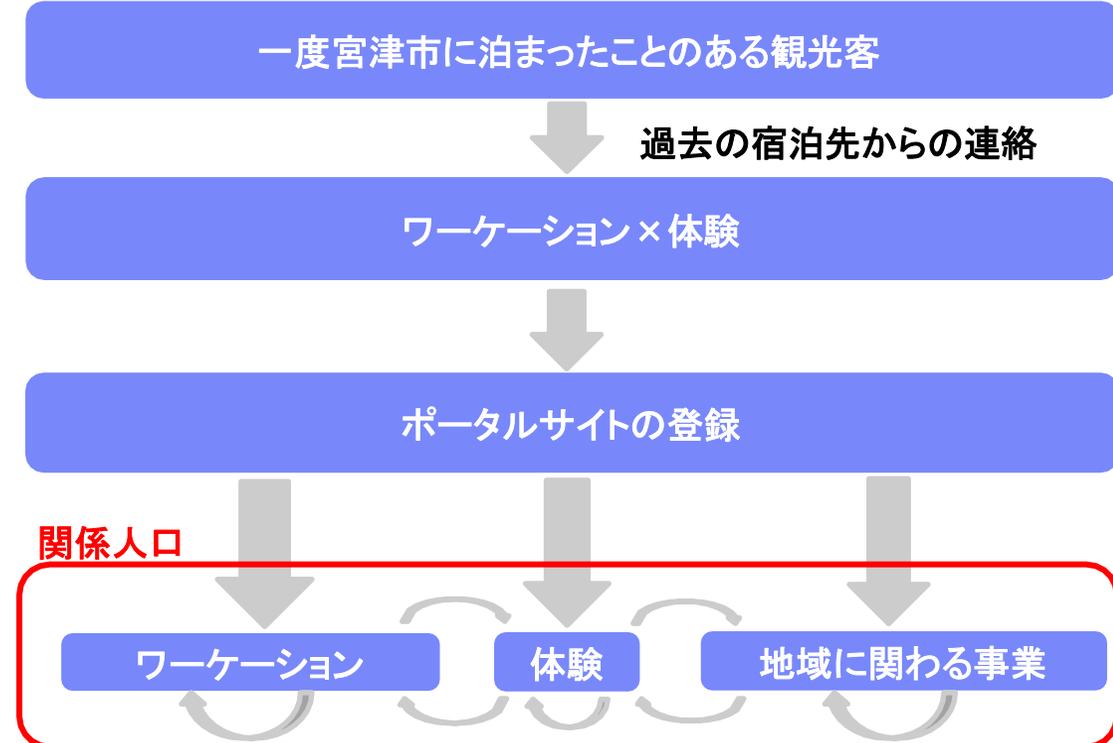
=宮津市のファンを増やす。

③関係人口ポータルサイトの開設

ワーケーターに公式LINEに登録してもらい、
ポータルサイトで情報発信

=ファンを手放さない。

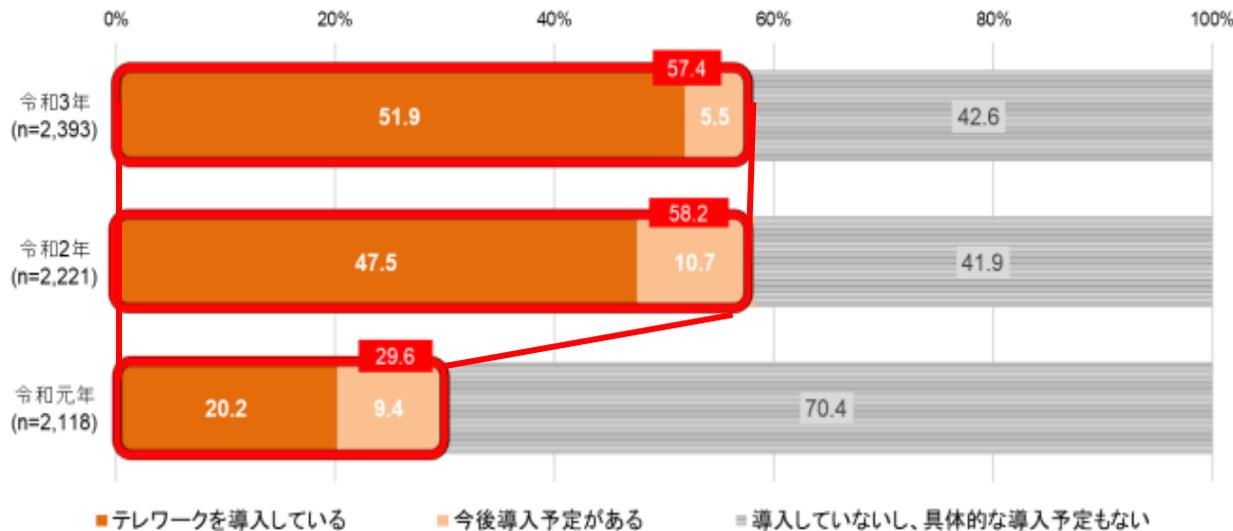
【政策の流れ】



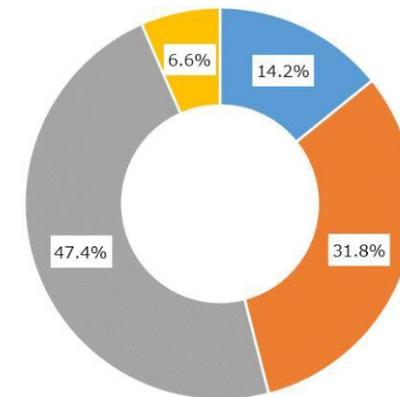
ワーケーションに着目した理由①

テレワークが普及し、ワーケーションという概念が認知されている状況

テレワーク導入企業の割合は**5割超**。
今後導入予定がある企業を含めた割合は、
6割近くに達している。



ワーケーションの認知度は**約8割**。
一方、実体験者は約7%にとどまる。



- 「ワーケーション」という言葉を見聞きしたことが無い
- ニュースやテレビ等で「ワーケーション」という言葉を見聞きしたことはあるが、どのようなものかはよく知らない
- ワーケーションを経験したことはないが、ニュースやテレビ等で「ワーケーション」という言葉を見聞きしたことがあり、他者にワーケーションがどのようなものかを簡単に説明することができる
- ワーケーションを経験したことがあり、他者にワーケーションがどのようなものかを簡単に説明することができる

図4. ワーケーションに関する知識・経験の有無

ワーケーションに着目した理由②

宮津市に既にワーケーション施設がある

前尾記念クロスワークセンターMIYAZUをはじめ、4拠点のワーケーション施設が整備されているため、既存の施設を活用することができる。

前尾記念クロスワークセンター
MIYAZU



リゾートオフィス交流拠点
丹後ゆら



いなかよし

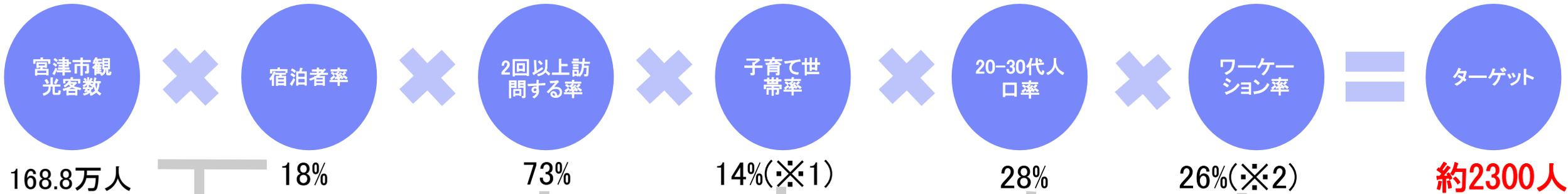


自強館



ターゲットは誰か？

20-30代の子持ち世帯で、宮津市に1回以上宿泊したことのある層
約2300人をターゲットに設定



(観光入込客数及び観光消費額)

	令和3年数値	令和2年数値	対令和2年比
観光入込客数	1,687.9千人	2,144.2千人	78.7%
府内客数	412.8千人	465.8千人	88.6%
府外客数	1,275.8千人	1,678.4千人	76.0%
宿泊客数	304.2千人	393.4千人	77.3%
日帰客数	1,383.7千人	1,750.8千人	79.0%

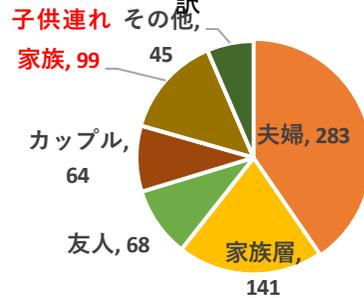
出典：宮津市『令和3年観光入込調査結果について』

宮津市訪問者数 内訳

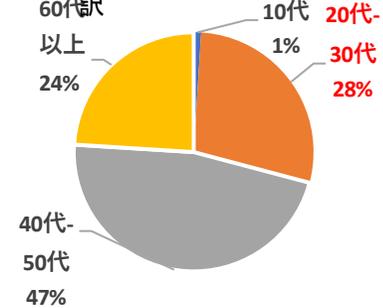


宮津市『宮津市観光WEBアンケート調査のまとめ(第2回)』p.3をもとに筆者作成

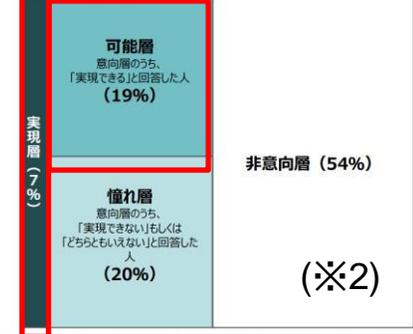
訪問者層 内訳



訪問者年代 内訳



意向層 (39%)



ターゲット設定の背景①

ワーケーションの意向度と実現度はともに似た傾向を持ち、**若い世代ほど意向度、実現度が高く、子どもがいる人の方が意向度、実現度が高い**



ワーケーション全体の意向度(ワーケーション非実現者/単一回答)



ワーケーション全体の実現度(ワーケーション非実現者/単一回答)

ターゲット設定の背景②

過去に訪問した経験があり、かつ滞在日数が長い場所がワーケーションの候補地として選択されやすい

ワーケーションの周辺環境および意向との関係に関する探索的研究(小原、2021)による分類
 ワーケーションでの理想の環境による分類 ワーケーション意向への影響

クラスタ/因子	自然	歴史	娯楽	寒冷	温暖	芸術	利便	ワーケ	意向	特徴
クラスタ1	中	低	低	低	中	低	-	中	高	環境無関心型
クラスタ2	低	中	高	高	低	中	-	低	低	デジタルノマド型
クラスタ3	高	高	中	中	高	高	-	高	高	日本的ワーケター型

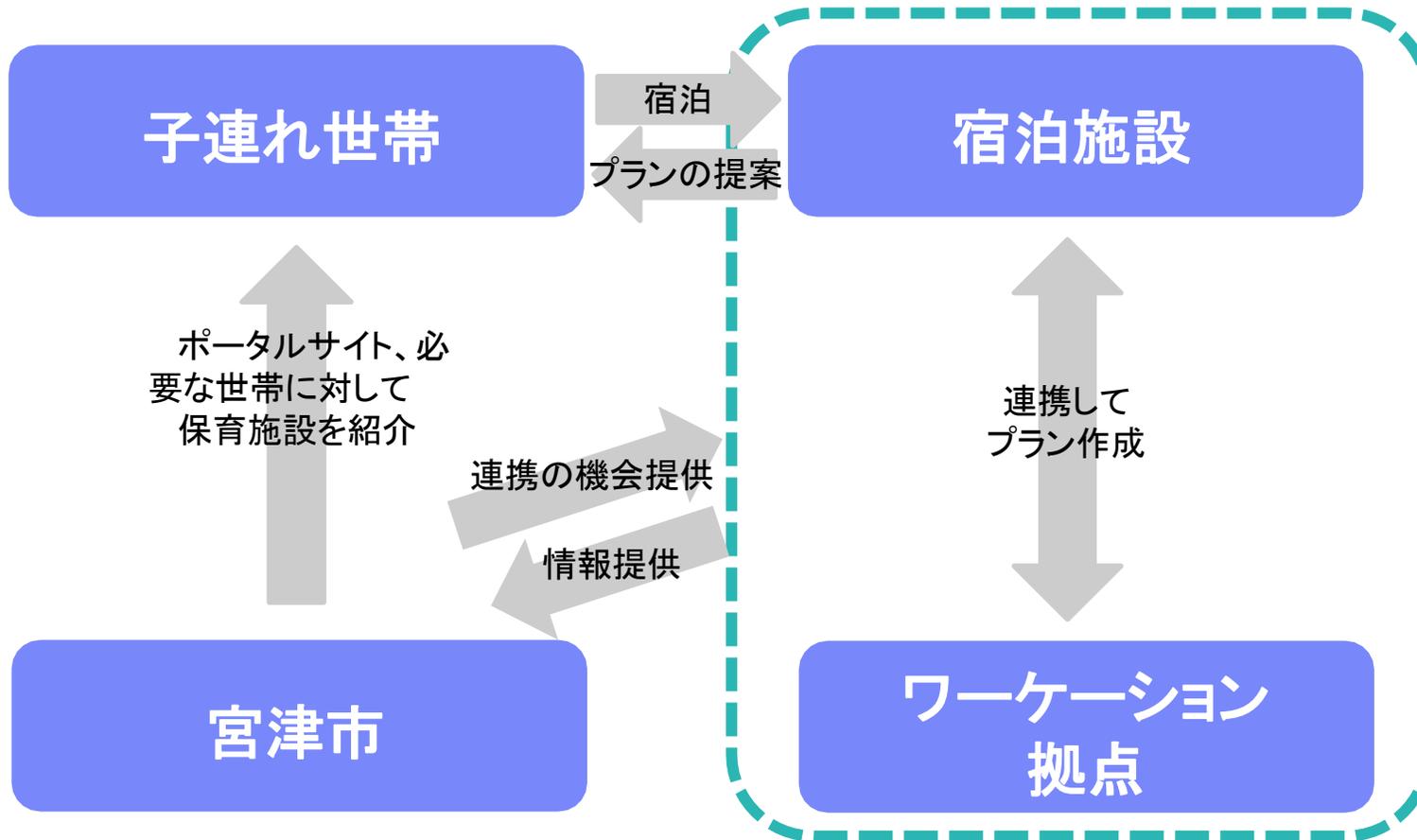
ワーケーション意向	<---	自然環境因子	0.177	0.107	1.799†
ワーケーション意向	<---	娯楽環境因子	-0.338	0.121	-2.417*
ワーケーション意向	<---	滞在日数	0.137	0.01	1.884†

- 宮津市の特徴である海や山などの自然環境を考慮すると、宮津市でワーケーションを行う人は自然環境を好む**日本的ワーケター型**に当たる
- 日本型ワーケターは滞在日数が意向に影響を与える

⇒過去に旅行等で訪問経験があり、かつ滞在期間が長い旅行先の中からワーケーションを行う場所の選択をする傾向がある

施策①ワーケーション宿泊プラン

宿泊経験のある子連れ世帯へ宿泊施設からワーケーションプランの提案



ステークホルダー	メリット
子連れ世帯	<ul style="list-style-type: none"> • お得に泊まれる • 子連れでもワーケーションができる
宮津市	<ul style="list-style-type: none"> • 関係人口の創出 • 観光消費額の増額
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> • 長期滞在 • 新規需要・プラン増
ワーケーション拠点	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者の増加

施策②ワークショップ×参加型体験

滞在期間中に地域に密着した体験をしてファンになってもらう

- 宮津市の自然、歴史、文化、産業に触れることで、その地域の魅力を知る
⇒宮津市の**”推し”**を増やす

先行事例：和歌山県田辺市

ワークショップ＋地域課題

- 地域の課題に触れる→地域をよく知る
- 地域の人々との交流

[結果]

参加者数25名（当初目標10名）

地域に触れることで関係人口創出を実現

平日

親の仕事中は子どもの参加型体験(小学生未満の子どもは一時預かり保育施設に預ける)

休日

親子で参加型体験



宮津祭



宮津おどり



定置網体験

施策③関係人口ポータルサイトの開設

ワーケーターに公式LINEとポータルサイトから次の来訪につなげる

市の関係人口ポータルサイトを開設し、LINEから会員登録をしてもらう



公式LINEのサービス

- 宮津市の体験イベントの開催日や内容を定期的に配信
- 施策①で紹介されているようなワーケーションプランを紹介
- ワケーションや体験等の申し込み

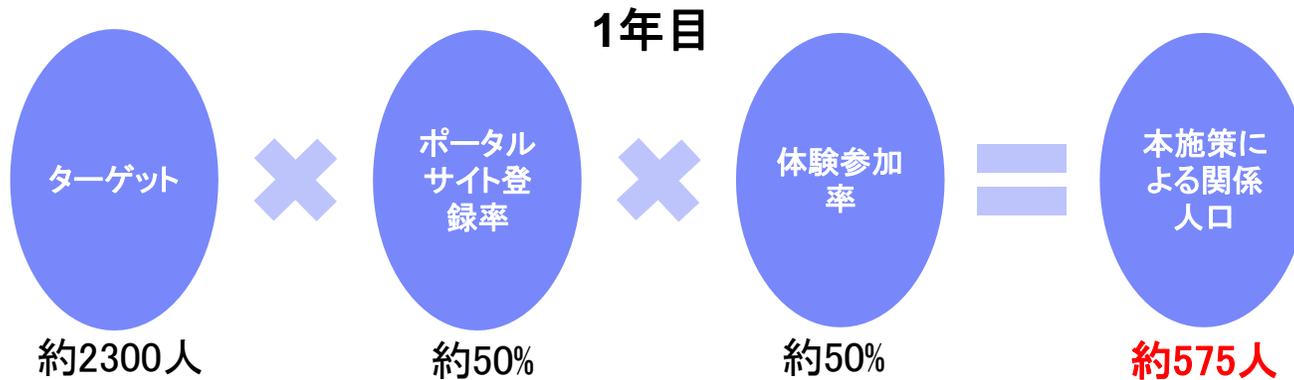


ポータルサイトのサービス

- 実際にワーケーションに参加した人の体験談
- ワケーションを行う際にかかる費用の概算シミュレーション
- 宮津市でできる体験紹介

施策の効果

- 本施策によって創出される関係人口は、事業開始1年目にして**約575人**と推定
- その後も4年間で最大**約904人**増加する見込み(※1)



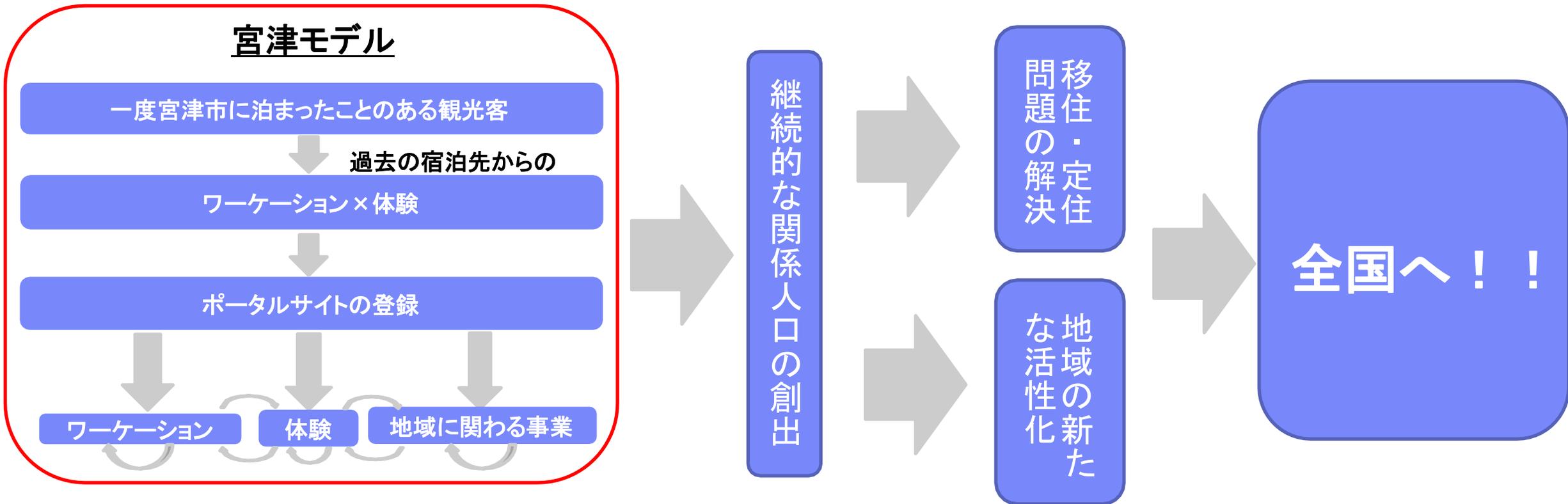
観光市場(※2)とワーケーション市場規模予測(※3)に基づいて、**ターゲット人数が年平均15%で増加**すると推定

ポータルサイトの認知度上昇に伴い、**宿泊プラン選択率・体験参加率が合わせて年平均で10%増加**



今後の展望

本事業がモデルケースとなることで、**継続的な関係人口創出**を全国に波及し、**移住・定住問題**をはじめとした**全国的な地域課題の解決**に貢献する



参考文献

- 一般社団法人中国経済連合会、2022年、『関係人口の創出・拡大による地方創生の推進に関する調査研究』
- 小原光春、2021年、『ワーケーションの周辺環境および意向との関係に関する探索的研究』、Vol. 33 特集号 日本観光研究学会機関誌
- 株式会社矢野経済研究所ホームページ、2022年9月、『ワーケーション市場に関する調査を実施(2022年)』(https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/3056 最終閲覧日2022年9月30日)
- 株式会社NTTデータ経営研究所、2021年12月、『地方移住とワーケーションに関する意識調査』(<https://www.nttdata-strategy.com/newsrelease/211206.html> 最終閲覧日2022年9月30日)
- 京都府商工労働観光部、2022年、『令和元年度観光入込客数調査報告書』
- 国土交通省、『ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会 ～関係人口と連携・協働する地域づくり～ 最終とりまとめ』
- 総務省、2018年1月『平成29年度 第2回「田園回帰」に関する調査研究会資料2過疎地域への移住者に対するアンケート調査』
- 総務省、2020年3月、『令和元年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業(関係深化型・関係創出型)成果報告書』、地域力創造グループ地域自立応援課
- 総務省、2020年3月、『令和元年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業(裾野拡大型・裾野拡大(外国人)型)成果報告書』、地域力創造グループ地域政策課
- 総務省、2022年5月、『令和3年通信利用動向調査の結果』(https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/220527_1.pdf 最終閲覧日2022年9月30日)
- 宮津市ホームページ、『市の位置・地形』(<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/soshiki/1/4643.html> 最終閲覧日9月30日)
- 宮津市、2021年5月、『第7次宮津市総合計画』
- 宮津市、2022年2月、『宮津市観光WEBアンケート調査のまとめ(第2回)』(https://www.city.miyazu.kyoto.jp/uploaded/life/13073_21513_misc.pdf 最終閲覧日2022年9月30日)
- 宮津市、2020年、『みやびビジョン2011中間検証(令和2年10月時点)』
- 森成人、2021年11月、『新しい関係人口 ワーケーション需要の現状と可能性』、株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター
- RESAS地域経済分析システム(<https://resas.go.jp/#/26/26205>)

ご多忙の折、調査にご協力いただいた宮津市企画財政部企画課定住・地域振興係 矢野由美子様
株式会社Founding Base 筒井章太様・吉崎秋音様にこの場を借りて深く御礼申し上げます。